

学長とのサイエンス・カフェ開催

2011年3月11日の東日本大震災に伴う東京電力㈱福島第一原子力発電所の大事故以来、原子力に注がれる視線は非常に厳しくなっています。しかし、事故後に安全に原子炉を廃止措置につなげたり、放射性廃棄物や放射能除染への対応をするために、高度な原子力技術は益々必要であることに疑いはありません。今回、中村英夫学長が原子力安全工学科の学部学生に、困難な状況の中でも誇りと夢を失わずに学業に専念し、将来の日本の原子力界を背負って立つ人材になるようエールを送るという趣旨で、学長とのサイエンス・カフェ（SC）が開かれました。

2月20日は、4年生の10名、2月25日は、3年生の7名が学長室に招かれ、フェース to フェースでざっくばらんに学長とのテーブルトークを行いました。学長からは、はじめに「学生時代に困難な分野であっても、人生の最後には隆盛している分野は多い。厳しさがわかっているからみんなが努力をするからだ。原子力技術者はこれからも絶対必要なので、未来を自分の力で切り開いて行って欲しい」と激励の言葉がありました。学生からは、なぜ原子力を勉強したいと思ったか、将来はどういうどの分野で貢献したいか、など一人ひとりが、学長と会話しながら発言しました。また学長に「どんな学生時代でしたか？」や、「原子力を学ぶ学生に活動支援してくれる団体はありませんか？」などの質問をし、学長も親身になって答えてくださいました。

様々な人生経験を重ねていらした学長の話に、学生も真剣に耳を傾け、今後の活力を見出すのに良い刺激となったようです。引き続き、2年生、1年生を対象としたSCは3月13日に予定されています。



2月20日4年生とのSC



2月25日3年生とのSC

2月25日 湯本工学部長も特別ゲストとして参加。
高木教授も同席。



2月20日 持木主任教授と担任の鈴木教授も同席

